



「稲の穂の 伏し重なりし 夕日哉」

正岡子規

とても過ごしやすい、季節を迎えています。

この時期は、「本を読もう」「運動をしよう」「旅行に行こう」等、なにかやってみたいという気持ちになりませんか。そんな思いがわいてきたら、思い切ってチャレンジしましょう。人生を豊かにするチャンスです。

スマートフォンについて考えましょう(3)

これまでの「青少年育成センターだより」のテーマで一番多いのが「スマートフォン」についてです。ここで、改めてみなさんと考えてみたいと思います。

ある新聞に掲載されていた記事を紹介します。

・・・親がスマホを与えるのは、むずかる赤ちゃんをあやしたり、家事で忙しかったりする時が多い。動画を見ていると喜ぶので、そのままにしてしまいがちです。赤ちゃんは1人でブルーライトを浴びながら、画面を見続ける。その結果、最近では、親にあやしてもらいよりもスマホをくれと泣きわめく「スマホ中毒」の赤ちゃんが出てくるなどの影響が出ています。

乳幼児期は子どもの心の土台をつくる時期で、親子で時間をかけて接触を重ねることが大切です。親が世話したり、話しかけたりすることで、赤ちゃんは「この人は私の命を守ってくれる人なんだ」と信頼を寄せる。同時に、「自分は世話されるに値する人間なんだ」と感じられるようになります。

スマホが大人の「生活必需品」になったいま、育児に一切使ってはいけないとは思いません。スケジュール帳に予防接種の予定を記録したり、じんましんやけいれんなど子どもの病状を写真や動画で撮ったり、子どもを育てる生活の中で活用するのはいいと思います。ただ、育児の効率化が親の都合による手抜きになっては困ります。乳幼児期に手間ひまかけて時間をかけて誰かに寄り添ってもらうことは、子どもの人格形成に大きな影響を及ぼします。

子どもは3～4歳までには1千～2千語の言葉を覚えます。その過程では、五感を使った直接体験が必要になります。触ったり、なめたり、匂いをかいだり、親から聞いたり・・・。スマホは便利で、ひとつの機器でたくさんことができる反面、この直接体験が貧弱になってしまう。言葉に遅れがある乳幼児の親に「スマホを使うのをやめてみたら」と助言すると活発にしゃべるようになった事例はあちこちの小児科で聞きます。スマホは赤ちゃんが寝てから使うなど、メリハリをつけた使い方が大切だと思います。

乳幼児にスマホを使わせることに条件付きで賛成の立場の人もおられます。

しかし、この記事を書かれた小児科の先生は、スマホの使用は人にとって一番大切な「人格形成」や「言葉の遅れ」等に影響があると言っておられます。とても怖いことです。小児科医会でも、スマホを乳幼児に与えることについて注意喚起をしているところだす。(詳しくは、日本小児科医会のホームページ「スマホに子守りをさせないで!」をご覧ください。)

大切なのは、忙しいからと言っておやみに子どもにスマホを与えないで、子どもの健やかな育ちのために、子どもにしっかり関わってやることではないでしょうか。子どもと肌を接すること、そして時間を共有することにより親子の信頼関係がますます深くなっていくものです。スマホによる子育ては止めましょう。

問合せ先：防府市教育委員会生涯学習課 青少年育成センター(23-3013)